

## 1. 第1回国際シンポジウムのプログラム

新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」の最初の国際シンポジウムが2009年7月9～10日にスラブ研究センターで開催されます。テーマは「地域大国と持続的発展の可能性」です。参加希望の方は、[ホームページにある「申込みフォーム」](#)をクリックして申し込みください。

今回のシンポジウムは新学術領域研究の経済班（第3班）が中心になって組織しています。本領域研究では、共同研究参加者全員が、自分のこれまでの研究対象国と他の地域大国との比較を自ら行うことが求められていますが、マクロ経済を扱うセッション1や、格差と貧困問題を扱うセッション5では、ほとんどの報告者が2ヵ国以上の比較を試みようとしています。また、国際関係班（第1班）が組織する第4セッションは、アフガニスタン、インド、パキスタンの専門家が集まり、とくにインドはカシミール、パキスタンはペシャワルの中央アジア研究所のメンバーが一堂に会して中央ユーラシアの国境問題を論じるという画期的なものです。

各班の研究代表者、研究分担者、連携研究者、研究協力者、プロジェクト研究員の旅費（国際シンポジウム、全体集会への出席に関わる旅費）は、原則として総括班から支出いたします。7月12日に第6班が開く研究会のための滞在を含めていただいても結構です。旅費を総括班から支給する場合はご旅程が決まり次第、事務局までご連絡ください。特に、こちらから「出張依頼書」の発行をご希望の方は、ご依頼と旅程の早めの連絡をお願いいたします。

新学術領域研究第1回国際シンポジウム「地域大国と持続的発展の可能性」

The First International Symposium of Comparative Research on Major Regional Powers in Eurasia

The Elusive Balance: Regional Powers and the Search for Sustainable Development

7月9日

開場 9:00

オープニング 9:45

●セッション1—経済改革とマクロ経済 10:00～12:00

**Economic Reforms and Macro Economic Performance**

Chair : NAKAMURA Yasushi (Yokohama National University)

Paper givers:

( 1 ) SATO Takahiro (Kobe University), “Empirical Analysis of Productivity Growth in India and China”

( 2 ) UEGAKI Akira (Seinan Gakuin University), “Balance of Payments in Comparative Perspective: Russia, India and China”

( 3 ) Sudip Ranjan BASU (UNCTAD, UN, Geneva) , TBA

Discussant : Harry WU (Hong Kong Polytechnic University)

●セッション2—エネルギー安全保障を求めて 13:30～15:30

**Searching for Energy Security**

Chair: MATSUZATO Kimitaka (SRC)

Paper givers:

( 1 ) HORII Nobuhiro (Kyushu University), “The bottlenecks of China's energy supply and their change and outlook in market transition”

( 2 ) Shebonti Ray DADWAL (Institute for Defense Studies and Analysis, New Delhi), Energy Security: Trends, Challenges and Opportunities for India

( 3 ) Vladimir IVANOV (Rosneft Oil Company, Regional Representative Office, Beijing), TBA

Discussant: MOTOMURA Masumi (JOGMEC)

●セッション3—環境の政治学：「京都」後の地球温暖化 15:45～17:45

**The Politics of the Environment: Global Warming after Kyoto**

Chair : TABATA Shinichiro (SRC)

Paper givers :

( 1 ) KAMEYAMA Yasuko (National Institute for Environmental Studies, Japan), “Japan in the midst of multilateral negotiation on the future framework for climate change”

( 2 ) PANG Jun (Department of Environmental Economics and Management, Renmin University), “The environmental problems and policies of China”

( 3 ) Ambuj SAGAR (IIT, Delhi), TBA

Discussant: KANIE Norichika (Tokyo Institute of Technology)

●懇親会（アスペンホテル） 18：30～20：30

7月10日

●セッション4—引き裂かれたユーラシア：作られた国境をめぐって 10：00～12：00

**Artificial Boundaries: The Broken Heart of Eurasia**

Chair : YOSHIDA Osamu (Hiroshima University)

Paper givers :

(1) Mushtaq A. KAW (Centre of central Asian Studies, University of Kashmir, India), “Border Politics in the Heart of Eurasia: A Case Study of India, Pakistan and Afghanistan”

(2) A. Ghafoor LIWAL (Regional Studies Center of Afghanistan [RSCA]), “The Area between Afghanistan and Pakistan, Historical Background and Present Turmoil”

(3) Sarfraz KHAN (Area Study Centre, Russia, China, Central Asia, Peshawar University, Pakistan), TBA

Discussant: HIROSE Takako (Senshu University)

●セッション5—社会的格差と貧困 13：30～15：30

**Social Disparity and Poverty**

Chair: HORIE Norio (University of Toyama)

Paper givers :

(1) TAKEDA Yuka (Waseda University), “Is Russian Economic Growth Pro-Poor?”

(2) IMAI Katsushi (Manchester University), “Poverty and Inequality in India and China”

(3) Ruslan YEMTSOV (World Bank), “The rise of inequality in Russia during the transition: Do we really know how it happened?”

Discussant : MARUKAWA Tomoo (University of Tokyo)

●セッション6—歴史的視点から 15：45～17：45

**Historical Perspectives**

Chair: SUHARA Manabu (Nihon University)

Paper givers :

(1) Vladimir POPOV (New Economic School, Moscow and Carlton University), “Why the West got rich before China? Another explanation of the Great Divergence story”

(2) SAITO Osamu (Hitotsubashi University), “Income growth and inequality over the very long run: England, India and Japan compared”

Discussant : SUZUKI Yoshikazu (Tokyo University of Foreign Studies)

## 2. 第2回全体集会のプログラム

第2回全体集会では、研究進捗状況の報告に続き、具体的なテーマに沿って比較地域大国研究の方法を議論します。第1セッションでは、この領域研究において班を超えた共同研究のテーマの一つとしている、ジェンダーの問題を取り上げます。国家の表象・ナショナリズムとジェンダーとの関係や、ジェンダー理解の国ごとの特徴について、インド、中国、ロシアの例に則した報告を伺い、東欧研究者からコメントをいただくことになっています。第2セッションのテーマは主に第4班に関係するものですが、帝国の近代化の過程で歴史認識がどのように変容し、現在の地域大国の意識につながっているかを議論します。イランとオスマン帝国に関する報告に対し、中国研究・中央アジア研究の視点からのコメントを加えることで、比較の議論を組み立てたいと考えています。ふるってのご参加をお待ちしています。領域研究メンバー以外の方にもご自由に参加いただけます。[宇山智彦(組織担当者)]

新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」第2回全体集会

日時 7月11日(土) 13:00~18:00

場所 北海道大学スラブ研究センター4階大会議室

●領域研究活動報告 13:00~13:40

領域代表および各班研究代表者

●第1セッション「ジェンダー論による地域比較の可能性」 13:50~16:00

栗屋利江(東京外国語大学)「近代インドにおける国民国家の表象とジェンダー」

小浜正子(日本大学)「中国近現代のナショナリズムとジェンダーの表象」

前田しほ（北海道大学）「現代ロシア女性文学におけるジェンダー理解とその可能性」

コメント：篠原琢（東京外国語大学）

●第2セッション「帝国・地域大国の歴史認識」 16:10～18:00

守川知子（北海道大学）「近代イランの自画像」

小笠原弘幸（青山学院大学）「近代オスマン帝国における世界史叙述と「トルコ」」

コメント：村田雄二郎（東京大学）、宇山智彦（北海道大学）

シンポジウム関連企画（詳細は各班の研究会情報をご覧ください）

7月12日「地域大国の文化的求心力と遠心力」研究会（北海道大学スラブ研究センター）

7月13日 研究会「パキスタン・アフガニスタン情勢の現在—地域大国のはざままで—」（大阪大学世界言語研究センター）

### 3. 『比較地域大国論集』の刊行

3月4日に開催された第1回全体集会の記録が、新学術領域研究ディスカッションペーパー『比較地域大国論集』の第1号として発行されました。[当領域研究のホームページ](#)からダウンロードすることもできます。

### 4. ブルッキングス研究所との共催シンポジウム

スラブ研究センターと北東アジア政策研究センターがワシントンで主催したシンポジウム「北東アジアを越える日米同盟」（5月8日開催）は100人を越える聴衆が詰めかけ、日米のパネリストによる討論は大いに盛り上がりました。また前夜に日本大使館で行われたレセプションも50人前後が招待され、盛況でした。シンポは多くの関連団体からの支援を受けて実施されましたが、新学術第1班の後援もそのなかに含まれており、第1班の岩下明裕（北海道大学）が全体のコーディネートをしました。[スラブ研究センターのサイト](#)でプログラムや報告内容のテキストと音声をダウンロードすることができます。シンポジウムに関する報道は[こちら（ニュースサイトUS Front Line）](#)を御覧ください。

### 5. 今後の予定

7月9日（木）～10日（金）：新学術領域研究第1回国際シンポジウム（於北海道大学）  
第3班主催

7月11日（土）：新学術領域研究第2回全体集会（於北海道大学）

12月12日（土）～13日（日）：新学術領域研究第2回国際シンポジウム（於早稲田大学）第2班主催

## 6. 各班の研究会情報

### 第3班

上垣彰・田畑伸一郎両氏の研究論文がHP（第3班の「研究成果・活動報告」）に掲載されています。

班会議（研究打ち合わせ）

日時：7月11日（土）午前10時～11時15分

場所：北海道大学スラブ研究センター4階セミナー室1（404号室）

※班員のための会合とします。

### 第5班

第1回～第3回研究会の報告結果とレジュメがHP（第5班の「研究成果・活動報告」）に掲載されています。

第4回研究会

日時：6月30日（火）15時～17時

場所：大阪大学箕面キャンパス 総合研究棟6階「国家の輪郭と越境」プロジェクトルーム（602号室）

研究会題目：『Mother India』を読む Part IV

使用テキスト：Katherine Mayo 著『Mother India』（テキストは配布します）

問合せ先：「国家の輪郭と越境」プロジェクト事務局

第1回打ち合わせおよび研究会

日時：7月4日（土）13時～17時

場所：大阪大学箕面キャンパス 総合研究棟6階「国家の輪郭と越境」プロジェクトルーム（602号室）

●議題

今年度の研究活動計画について

平成22年1月開催予定の中規模研究集会「イスラームと帝国」について

●報告

小松久恵（プロジェクト研究員）「国家の輪郭と越境」研究会 ―Mother India を読む Part I～V― における中間報告および3月のインド調査報告」

※班員のための会合とします。

研究会「パキスタン・アフガニスタン情勢の現在―地域大国のはざままで―」

日時 平成21年7月13日（月）午後1時～5時

場所 大阪大学世界言語研究センター（大阪大学箕面キャンパス）総合研究棟6階プレゼンテーションルーム

●報告者（英語による報告です）

サルフラーズ・ハーン（パキスタン・ペシャール大学地域研究所長）

ガフル・リワル（アフガニスタン・アフガニスタン地域研究所長）

趣旨：「国家の輪郭と越境」研究では、ユーラシアにおける地域大国、中国、ロシア、インドの比較研究を行う上で、各国内の少数派や、海外への移民、周辺地域など、周縁とされるものの考察を通して、地域大国像を照射するべく研究を行っています。今般、パキスタンとアフガニスタンの地域研究者をお招きし、パキスタン、アフガニスタンを含めた、南アジア・中央アジア情勢についてお話しいただくこととなりました。パキスタンとアフガニスタンは、ロシア、中国、インドのいずれの地域大国とも深く関わる国家として、世界の関心を集めています。地域大国のはざまに置かれた両国の歴史的経緯と現状をとおして、地域大国のさまざまな影響力を検討したいと思います。

連絡先：「国家の輪郭と越境」プロジェクト事務局

第6班

5月25日の研究会で報告したアンナ・ポノマリョワ氏のレジюмеがHP（第6班の「研究成果・活動報告」）に掲載されています。

「地域大国の文化的求心力と遠心力」研究会

日時：7月12日（日） 9：30～15：00（予定）

場所 北海道大学スラブ研究センター4階大会議室（403号室）

- フォーラム：研究の進め方と展望について 9：30～
- 研究発表：ユーラシア大国の比較文化的研究 10：15～12：15  
越野剛「ロシア文学における中国のイメージ」  
住家正芳「加藤玄智と梁啓超 ～日中比較で見る文化統合イデオロギーとしての宗教」
- 昼食休憩 12：15～
- 映画上映会 13：30～15：00  
「交差するロシアとアジア：ソ連・ロシアから見たアジア・イメージ」  
高橋沙奈美（企画・解説）

発行者：田畑伸一郎（領域代表者）

事務局：越野剛，後藤正憲，小原由美子

電話 011-706-4809

ファクス 011-706-4952

メール [rp@slav.hokudai.ac.jp](mailto:rp@slav.hokudai.ac.jp)

H P <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/index.html>

住所 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目  
北海道大学スラブ研究センター